

平成 30 年第 2 回 施政方針

平成 30 年第 2 回小美玉市議会定例会を開催するにあたり、上程しております議案の説明に先立ちまして、今後 4 年間の市政運営に関する所信の一端を申し上げます。

私は先の市長選挙におきまして、無投票再選の栄に浴すことができました。

引き続き市政の舵取りを任せていただくことに、改めてその責任の重大さを痛感するとともに、市民の皆様の大きな信頼と期待に応えられるよう、全力を傾注し市政発展に努めてまいり所存でございます。

振り返れば、小美玉市が誕生して以来、私の政治理念であります「対話と協調」のもと、市の将来像である「人が輝く 水と緑の交流都市」の実現に向け、総合計画に基づき全力で事業を展開してまいりました。

これまでに、常磐自動車道石岡小美玉スマート IC の開通や、茨城空港の開港、さらには地域再生の拠点を目指す、空のえき「そ・ら・ら」のオープンなど、交流人口の増加が図られるとともに、全国で初となる「乳製品で乾杯を推進する条例」を策定し、市が誇る生乳・乳製品の県内外への発信や霞ヶ浦湖岸から望む「ダイヤモンド筑波」をイメージアップ戦略の中核に据えたプロモーションの実施など、各種施策を展開してまいりました。

一方、全国的に少子高齢化と人口減少が進むなか、本市においても最優先でこの問題に取り組むため、小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」を策定し、着実に推進しているところでございます。

次の 4 年間におきましても、この歩みを止めることなく、「住んでみたい、住んでよかった、これからも永く住み続けたい」といわれる小美玉市にしていくこと。

さらには、未来を担う子ども達へと繋いでいく、「ダイヤモンドシティ小美玉市」の実現に向けたまちづくりを議員の皆様、そして市民の皆様と共に進めていく決意でございます。

平成 30 年度からは、「小美玉市第 2 次総合計画」による新たなまちづくりがスタートいたします。

第 2 次総合計画では、新たな市の将来像を「ひと もの 地域」が輝き はばたく ダイヤモンドシティ ～みつける。みがく。光をあてる～」と定め、この将来像に向けて市民の皆さまの思いを重点的かつ積極的に取り組んでいくための理念として、

「協働・連携、そしてチャレンジ」

「ふるさと・文化、そしてシビックプライド」

「人・もの・情報の交流、そして発信」

以上の 3 つを基本理念として掲げ、まちづくりを進めてまいります。

この基本理念に基づいたまちづくりを効果的に展開するため、重点的に取り組んでいく個別施策について申し上げます。

はじめに、積極的な企業誘致を推進してまいります。

茨城空港テクノパークについては、県において大幅な値下げを行うなど、企業誘致の促進が図られております。

こうしたなか、市としましても産業集積に向けて県等の関係機関と更なる連携を図るとともに、茨城空港と石岡小美玉スマート IC を結ぶ（仮称）石岡小美玉スマート IC アクセス道路周辺地域についても土地利用に関する総合的な調整を図りつつ、積極的な企業誘致を進めることで、雇用の創出、地域振興を図ってまいります。

また、茨城空港周辺の賑わいづくりとしまして、空港公園の整備促進について、地域の活性化や空のえき「そ・ら・ら」との相乗効果など、様々な方向からの検討を進めてまいります。

次に、持続可能なまちづくりのため、効果的・効率的な行政運営を進めてまいります。

地方の財政状況が依然として厳しい状況下におきましても、多様化する住民ニーズに的確に対応することが求められております。

質の高い公共サービスを引き続き効果的・効果的に提供し、持続可能なまちづくりを進めるためには、これまで以上に現状を把握し、人口減少対策などの喫緊の課題を含め、将来を見据えた効果的で簡素な行財政運営が必要です。

こうしたなか、総務課内に行革推進係を設置し、費用対効果と成果を重視する視点に立った事務事業の見直しと経費削減への取組、新たな市民ニーズや行政課題に対応できる柔軟で機動性ある組織運営と、これを担う職員の意識改革と資質向上を図るため、「第3次小美玉市行財政改革大綱」に基づく実施計画「チャレンジプラン」を推進し、効果的・効果的な行政改革に取り組んでまいります。

次に、情報発信によるシティプロモーションを推進してまいります。

人口減少社会の到来により、地域間競争が激しくなっている昨今、本市がその競争で生き残っていくためには、より戦略的に情報発信を行い、外部からの客観的な評価を上げるとともに、地域住民や市に縁のある人たちが市の魅力を語り、発信していく必要があります。

企画調整課内に新たに設置したシティプロモーション係を中心に、地域住民や本市出身の市外居住者、企業、関係機関、メディアなど本市に縁のある、あらゆる人が市の魅力を見つけ、磨き、光をあてて発信していくことが、今後推進すべきシティプロモーションであると考えております。

さらには、今年度開催される「第1回全国ヨーグルトサミット in 小美玉」を通してシビックプライドの向上と交流人口の増加が見込まれます。こうした企画を契機に積極的な小美玉市の発信を行ってまいります。

次に、昨年度からの継続事業のうち、強力に展開を進めていく4つの重点事業を申し上げます。

まず、1つ目に JR 羽鳥駅及び駅前広場の整備事業でございます。

本市の陸の玄関口である JR 羽鳥駅周辺を活性化させるため、JR 羽鳥駅の橋上化及び自由通路、駅前広場の整備事業を着実に進め、これを契機とした人が集まる魅力づくりに計画的に取り組んでまいります。

2つ目に（仮称）石岡小美玉スマート IC アクセス道路整備事業でございます。

広域的な道路ネットワークの充実に向けた茨城空港へのアクセス機能の強化を図る

ため、県と連携のもと整備促進に取り組んでまいります。

3つ目に学校規模・学校配置適正化事業でございます。

既に、小川南小学校建設工事や玉里地区小中一貫校実施設計を進めているところでございますが、全国的な少子化の傾向と同様に、本市においても児童生徒数の減少は避けられず、ますます学校の小規模化が進むことが予想されます。

こうした環境のなか、児童生徒の望ましい教育環境の充実を目指し、「小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画」に基づき学校の適正規模・適正配置を計画的に進めてまいります。

4つ目にごみ処理広域化事業でございます。

老朽化が進む現在のごみ処理施設の更新を行い、安定的なごみ処理施設の運営を確保するため、4市町の広域体制によるスケールメリットを活かし、引き続き安定したごみ処理体制を確立し、循環型社会の推進を図ってまいります。

これまで申し上げてきました重点事業と併せ、市の将来像の実現に向けたまちづくりとしまして、5つの基本目標により市政運営を進めてまいります。

この5つの基本目標に関する主な施策について申し上げます。

みんなの力で磨くまちづくり

はじめに、「みんなの力で磨くまちづくり」であります。

人口減少、高齢化の進行、行政需要の多様化など、本市が抱える行政課題が深刻化するなか、地域が抱える課題について地域住民自らが協力して解決できる、市民協働のまちづくりの推進が必要であります。

将来にわたって持続可能なまちづくりを目指し、行政とともにつくるまちづくり、住民が主体となってつくるコミュニティづくりを推進し、誰もがお互い尊重し、助け合える地域社会形成を図ってまいります。

また、男性も女性も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会を目指し、男女が互いに認め合い、その個性と能力を十分に発揮させることができる積極的な人材育成を行うとともに、女性が活躍しやすい環境や安心して働ける職場環境の支援に取り組み、だれもが輝くまちを目指してまいります。

さらには、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、誰もが住んでみたいと思える地域環境の整備を進めるため、移住者を対象とした住宅取得に対する支援や、ふるさと回帰のきっかけとなる場の提供、出会いの場の創出などの取り組みを展開し、定住・人口対策の推進を図ってまいります。

人を育てる学びの場づくり

続いて、「人を育てる学びの場づくり」であります。

少子化の進行や女性の社会進出、共働き世帯の増加により家庭・地域を取り巻く環境が変化するなか、保育サービスの充実や、地域の子育て支援機能の充実など、地域が一体となって子育てを支援する体制づくりが必要となっています。

子どもの出産時に出産祝金を支給し、子育て世代の負担軽減に努めるとともに、出産子育て情報アプリによる子育てに関する情報環境の向上を図るなど、安心して産み育てられる環境づくりを推進してまいります。

また、小美玉市で学ぶ子どもたちの望ましい教育環境の充実を目指し、市内全小学校で小中一貫教育を推進するとともに、質の高い教育の提供、安心して学べる教育環境の充実を図ってまいります。

さらに、市民が生涯を通して学ぶことができ、豊かな生活を送ることができるよう、自主講座団体の育成や多様な生涯学習活動の情報提供など、市民が主体的に学ぶための活動支援や環境整備をおこないます。

次に、文化芸術につきましては、「小美玉市まるごと文化ホール計画」に基づき、多種多様な参加・参画プロジェクトが生みだされており、住民主体によるシティプロモーションの事例としても全国から注目を集めています。

主体的に参加・企画することで、より一層のシビックプライドの醸成が図られるとともに、次世代のまちづくり人財育成が期待できます。

誰もがいきいきと暮らせる社会づくり

続いて、「誰もがいきいきと暮らせる社会づくり」であります。

社会情勢の変化に伴い求められる地域福祉サービスは多様化しており、既存の単一的なサービスのみでは支援が行き届かない状況となっております。

こうしたなか、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、効率的かつ適正に保健・医療・福祉の各種サービスを一体的に提供する地域包括ケアシステムを構築してまいります。

また、低所得者世帯やひとり親家庭に対しては、経済的支援、子育て支援、生活支援、就業支援など自立に向けた総合的な支援に努めてまいります。

さらに、地域医療の充実としまして「茨城県地域医療構想」の方針を踏まえながら、市内及び近隣医療機関との連携を促進するとともに、市民が安心して必要な医療を受けることができるよう、地域医療体制の構築を図ってまいります。

また、緊急通報システム装置の設置や配食サービスなど、質の高い高齢者福祉サービスに努めるとともに、地域の障がい者及び障がい児が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、各種サービスを総合的に行い、福祉の増進を図るとともに、経済的な支援などの各種手当や助成制度の周知、充実に努めてまいります。

仕事と暮らしを創造する環境づくり

続いて、「仕事と暮らしを創造する環境づくり」であります。

茨城空港や JR 羽鳥駅周辺など都市機能等の拠点となる施設を中心に、市全体の計画的な土地利用を推進していくとともに、広域道路ネットワークの充実、生活道路の整備、公共交通の充実を推進してまいります。

公共交通につきましては、つくばエクスプレスの茨城空港までの延伸を目指し、空港周辺 7 市議会が中心となり、「TX 茨城空港延伸議会期成同盟会」が設立されました。

茨城空港の地元として、行政も議会と足並みを揃え、つくばエクスプレスの延伸に向けた取り組みを進めてまいります。

また、農業の現状としましては、担い手の高齢化が進み、次世代の農業を担う若者の人材確保は深刻な課題となる一方、特産品開発やブランド化による農業振興の必要性が高まっております。

将来にわたって食料の安定供給の確保を図るため、新規就農者への支援や農業経営のフォローアップなど、担い手の確保と育成に努めるとともに、全国でも有数の生産量を誇る本市の農畜産業を生かした農産物の「小美玉ブランド」の知名度向上に向けた取組への支援。また、霞ヶ浦の水産業の振興を図ってまいります。

次に、観光の振興としまして、地域が一体となった観光施策を推進するため、地域の観光資源や特色を生かした体験型観光として、霞ヶ浦と悠久の歴史を誇る玉里地区を対象とした体験型観光プログラムの整備を進めてまいります。

安心・安全な生活を支える体制づくり

最後に、「安心・安全な生活を支える体制づくり」であります。

将来にわたり自然環境を維持していくためには、市民一人ひとりの環境保全に関する意識の醸成と積極的な取組が必要です。

学校教育における体験学習や生涯学習を通じた環境保全に関する啓発活動、指導者の育成など、市民の環境保全活動を幅広く支援し、かけがえのない小美玉市の自然環境の保全を図ってまいります。

また、霞ヶ浦や河川の浄化対策を推進するとともに、騒音対策や放射線モニター測定などの公害対策を推進してまいります。

次に、防災対策につきましては、市民の生命と財産を守り、災害に強いまちづくりを進めるため、実践的な防災訓練や防災講習会の実施や国・県・関係機関との広域的な防災体制の充実・強化を図り、緊急災害時における迅速かつ確実な情報伝達に努めてまいります。

また、基地対策の充実、上・下水道の整備を継続して行い、安定した生活基盤づくりを推進してまいります。

以上、今後4年間の市政運営について、所信の一端と主な施策の概要を申し述べてまいりました。

これらの各施策を着実に展開し、一人ひとりの可能性や地域資源などのダイヤの原石を見つけて、みがき上げ、魅力の発信力を強化してダイヤモンドに光をあてることで、新たな市の将来像である『「ひと もの 地域」が輝き はばたく ダイヤモンドシティ』の実現に尽力してまいります。

議員の皆さま並びに市民の皆さまにおかれましては、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げまして、私の所信表明とさせていただきます。